

令和4年度第2次補正予算行政事業レビューシート (文部科学省)

事業名	独立行政法人国立科学博物館施設整備に必要な経費			担当部局	文化庁	作成責任者			
事業開始年度	平成14年度	事業終了 (予定)年度	終了予定なし	担当課室	企画調整課	企画調整課長 寺本恒昌			
会計区分	一般会計								
根拠法令 (具体的な 条項も記載)	独立行政法人通則法第46条			関係する 計画、通知等	第3期 教育振興基本計画(平成30年6月15日閣議決定) 第6期 科学技術・イノベーション基本計画(令和3年3月26日閣議決定) 第1期 文化芸術推進基本計画(平成30年3月6日閣議決定)				
主要政策・施策	科学技術・イノベーション			主要経費	文教及び科学振興				
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	独立行政法人国立科学博物館の設置する博物館施設の整備充実を図るため、独立行政法人国立科学博物館が行う博物館施設の整備に要する経費に対して補助を行い、もって自然科学及び社会教育の振興を図る。								
事業概要 (5行程度以内。別添可)	多くの来館者の安全のため、またナショナルコレクションの構築とそれらに基づく研究活動の継続的实施のため、施設の確実な整備・管理が必要であるが、更新・改修が十分になされておらず、施設の機能低下や事故発生等の危険性がある。については、来館者等の安心安全にかかわる施設等の整備について、改修・修繕を行うものである。(定額補助)								
実施方法	補助								
予算額・執行額 (単位:百万円)	予算 の 状 況	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度				
		当初予算	-	133	-				
		補正予算	50	1,366	976				238
		令和4年度 第2次補正予算							238
		前年度から繰越し	458	50	1,500				2,037
		翌年度へ繰越し	▲ 50	▲ 1,500	▲ 2,037				-
		予備費等	-	-	-				-
	計	458	49	439	2,275				
	執行額	410	45	438					
	執行率 (%)	90%	92%	100%					
当初予算+補正予算に対する執行額の割合 (%)	820%	3%	45%						
令和4年度第2次補正予算内訳 (単位:百万円)	歳出予算目	令和4年度 第2次補正予算	主な増減理由						
	独立行政法人国立科学博物館施設整備費補助金	238							
	計	238							
活動内容 (アクティビティ)	多くの来館者の安全のため、またナショナルコレクションの構築とそれらに基づく研究活動の継続的实施のため、施設の確実な整備・管理が必要であるが、更新・改修が十分になされておらず、施設の機能低下や事故発生等の危険性がある。については、来館者等の安心安全にかかわる施設等の整備について、改修・修繕を行う。								
活動目標及び活動実績 (アウトプット)	活動目標	活動指標		単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	4年度 活動見込	5年度 活動見込
	独立行政法人国立科学博物館の施設・設備の老朽化への対応、利用者の安全確保及び利便性の向上等を目的とした施設整備を適切に行う。	施設整備数	活動実績	式	3	1	0	-	-
単位当たりコスト	算出根拠			単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	4年度活動見込	
	各年度執行額/施設整備数			単位当たりコスト	百万円	137	45	0	569
				計算式	執行額/件数	410/3	45/1	0/3	2,275/4
成果目標及び成果実績 (アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標		単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	中間目標 - 年度	目標最終年度 2 年度
	中期目標で定められた入館者数等の達成 ※第4期中期目標初年度のH28より巡回展観覧者を含む数値に変更	年間入館者数等	成果実績	人	2,788,638	629,016	-	-	-
			目標値	人	1,600,000	1,600,000	-	-	1,600,000
			達成度	%	174.3	39.3	-	-	-
根拠として用いた統計・データ名 (出典)	独立行政法人国立科学博物館年報								

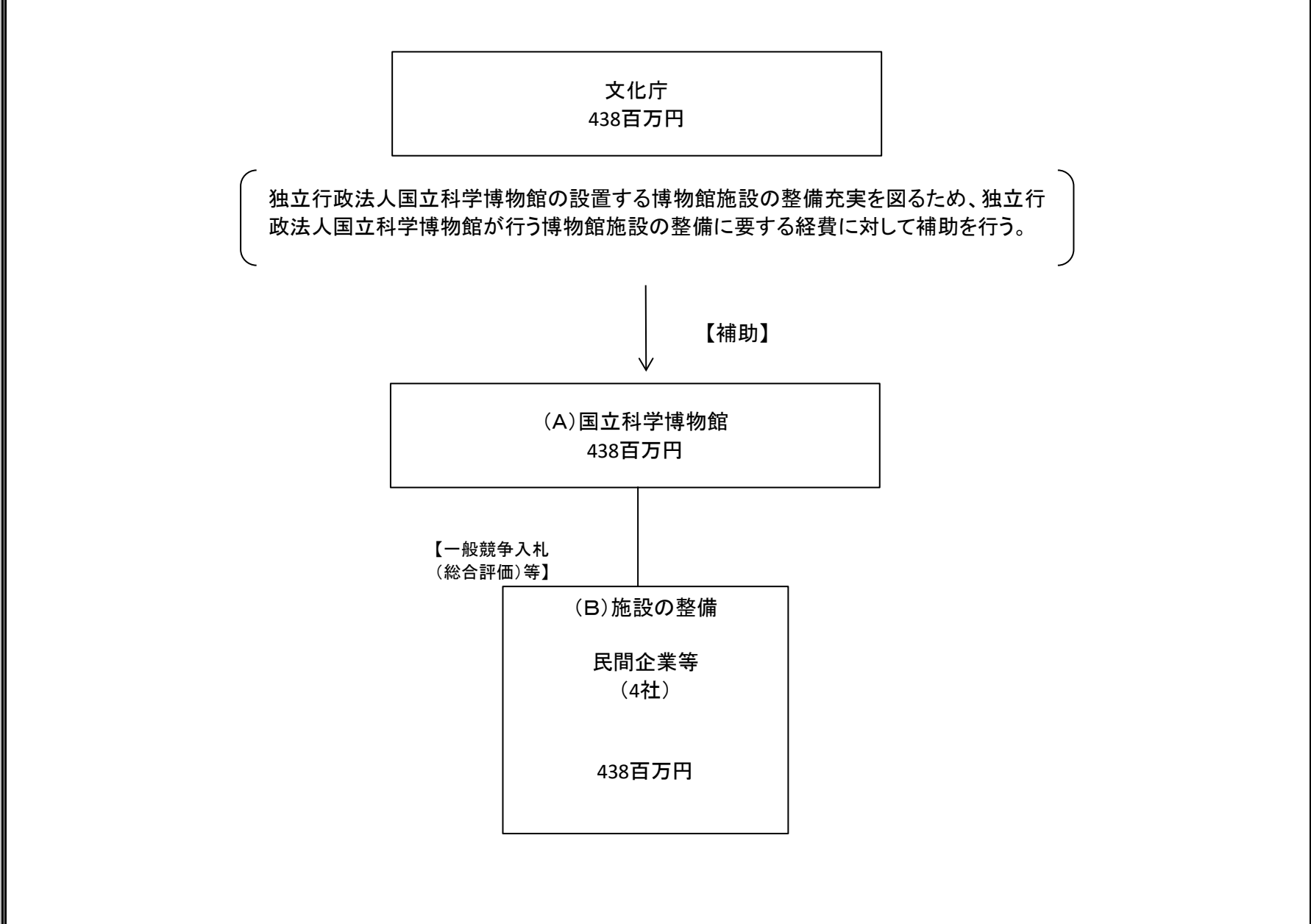
成果目標及び 成果実績 (アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標		単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	中間目標	目標最終年度
								-年度	2年度
	機能低下や事故発生の危険性が施設について、来館者等の安心安全のため、施設整備費による改修・修繕を行う。	施設整備費による改修・修繕の実施割合	成果実績	%	75	33	-	-	-
			目標値	%	100	100	-	-	100
			達成度	%	75	33	-	-	-
根拠として用いた統計・データ名(出典)	独立行政法人国立科学博物館年報								
成果目標及び 成果実績 (アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標		単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	中間目標	目標最終年度
								-年度	2年度
	独立行政法人通則法に基づく主務大臣による業務実績の評価結果のうち、標準評価以上の評価を受けた項目の割合。	標準評価(B評価)以上の評価を受けた項目の割合。	成果実績	%	100	100	-	-	-
			目標値	%	100	100	-	-	100
			達成度	%	100	100	-	-	-
根拠として用いた統計・データ名(出典)	業務の実績に関する評価								
成果目標及び 成果実績 (アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標		単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	中間目標	目標最終年度
								-年度	7年度
	来館者満足度調査による満足度について、全中期目標期間と同程度の水準(9割程度)を維持	来館者満足度	成果実績	%	-	-	93.6	-	-
			目標値	%	-	-	90	-	90
			達成度	%	-	-	104	-	-
根拠として用いた統計・データ名(出典)	独立行政法人国立科学博物館業務の実績に関する評価								
政策評価、 新経済・ 財政再生 計画との 関係	政策評価	政策	12 文化芸術の振興						
		施策	政策評価書URL	https://www.mext.go.jp/content/20211220-mxt_kanseisk02-000019646_12-4.pdf					
	新経済・ 財政再生 計画 取組事項	分野:	-						
		(新経済・財政再生計画改革工程表 2021) URL:	-						
		該当箇所	施策目標12-4-3						
事業所管部局による点検・改善									
国費投入の 必要性	項目				評価	評価に関する説明			
	事業の目的は国民や社会のニーズを的確に反映しているか。				○	当事業は独立行政法人通則法及び国立科学博物館法等に定められた、国民生活及び社会経済の安定等の公共上の見地から確実に実施されることが求められている事務及び事業である。			
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。				○	当事業は独立行政法人通則法及び国立科学博物館法等に定められた、国民生活及び社会経済の安定等の公共上の見地から確実に実施されることが必要な事務及び事業であり、地方自治体、民間等に委ねることはできない。			
政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。政策体系の中で優先度の高い事業か。				○	当事業は独立行政法人通則法及び国立科学博物館法等に定められた、国民生活及び社会経済の安定等の公共上の見地から優先度が高い事務及び事業である。				

事業の効率性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。	○	支出先の選定は、高度に特殊性のあるものを除き、一般競争入札により行っており、選定の妥当性や競争性を確保するとともに単位当たりコストの削減に努めている。また、「調達等合理化計画」において随意契約案件の整合性や、より競争性のある調達手続きの可否について検討することとしており、適正な予算の執行が行われている。なお、競争性のない随意契約となったものがあるが、業務の継続性の観点からやむを得ないものである。
	一般競争契約、指名競争契約又は随意契約(企画競争)による支出のうち、一者応札又は一者応募となったものはないか。	無	
	競争性のない随意契約となったものはないか。	有	
	受益者との負担関係は妥当であるか。	○	本事業は、独法が国から指示された中期目標の達成に向けて策定した中期計画を実施するために、独法に対し交付するものであり、負担関係は妥当である。
	単位当たりコスト等の水準は妥当か。	○	支出先の選定は業務の特殊性があるものを除き、一般競争入札により行っており、選定の妥当性や競争性を確保するとともに単位当たりコストを削減し、妥当なコスト水準を保っている。
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	○	会計規程等に則った適切な手続きにより行っており、効率化や削減努力に努めており、合理的なものとなっている。
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○	競争性の確保に努めるとともに、費目・使途は合理的かつ必要なものだけに限定されている。
	不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	○	-
繰越額が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	○	繰越額が大きくなっている理由は、予定していた工事はすべて新収蔵庫新営に係るものであったが、当初想定していなかった埋設物等の存在が判明し、計画変更の必要が生じたため。	
その他コスト削減や効率化に向けた工夫は行われているか。	○	支出先の選定は、業務の特殊性によるものを除き、一般競争入札により行っており、選定の妥当性や競争性を確保するとともに単位当たりコストの削減に努めている。	
事業の有効性	成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか。	○	適切な事業実施に努めており、来館者満足度調査による満足度について、成果目標を達成しており見合った成果実績となっている。
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。	○	国立科学博物館法に基づき、自然史に関する科学その他の自然科学及びその応用に関する調査及び研究並びにこれらに関する資料の収集、保管及び公共への供覧等を行うことにより、自然科学及び社会教育の振興を図ることを目的として実施しており、他の手段・方法等は考えられない。
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	-	-
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	○	事業年度に係る業務の実績について、外部有識者を参加させた経営委員会等の意見を受けるなど適切な事業実施に努め、施設、成果物についても十分に活用を図っている。
関連事業	関連する事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)	-	-
	事業番号	事業名	-
			-
備考			
国立科学博物館 http://www.kahaku.go.jp/			

関連する過去のレビューシートの事業番号				
平成23年度	-			
平成24年度	0068			
平成25年度	-			
平成26年度	-			
平成27年度	-			
平成28年度	-			
平成29年度	25			
平成30年度	25			
令和元年度	文部科学省 -	0388		
令和2年度	文部科学省	0389		
令和3年度	2021 文科	20 0414		

※令和3年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。

資金の流れ
 (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)
 (単位: 百万円)



費目・用途 (「資金の流れ」においてブロックごとに最大の金額が支出されている者について記載する。費目と用途の双方で実情が分かるように記載)	A. 独立行政法人国立科学博物館			B. 戸田建設(株)関東支店		
	費目	用途	金額 (百万円)	費目	用途	金額 (百万円)
施設整備費	国立科学博物館の施設整備	438	建物	国立科学博物館(筑波)第2収蔵庫新営工事	320.8	
計		438	計		320.8	

